

## 若手技師スキルアップへの道

### COVID-19 流行下における JA 愛知厚生連 8 病院の緊急臨床検査士取得支援事業

◎加藤 雄大<sup>1)</sup>、松本 美咲<sup>1)</sup>、藤上 卓馬<sup>1)</sup>、小原 未華<sup>2)</sup>、深津 裕雅<sup>2)</sup>、二村 真歩<sup>2)</sup>、山本 麻由<sup>3)</sup>、伊藤 真由美<sup>2)</sup>  
JA 愛知厚生連 豊田厚生病院<sup>1)</sup>、安城更生病院<sup>2)</sup>、江南厚生病院<sup>3)</sup>

【はじめに】JA 愛知厚生連は愛知県下に 8 病院が存在し、総勢 250 名の臨床検査技師が所属している。JA 愛知厚生連の臨床検査技師会は 6 つの専門部会とそれらを束ねる教育研修部会があり、様々な活動を行っている。教育研修部会では、2019 年度・2021 年度と若手技師のスキルアップとして緊急臨床検査士の取得支援を継続的に開催しており、この活動について報告する。

【方法】8 病院のうち、専門 6 分野（生化学・血液・一般・輸血・微生物・生理）の若手技師を選定し、総括 1 名を加えた計 7 名をコアメンバーとした。8 病院に受講を呼びかけ、2019 年度は 11 名、2021 年度は 17 名の受験のエントリーがあった。2019 年度は、1 回目の講習会（5 月）では、緊急検査項目の実技講習を行い、2 回目の講習会（6 月）では、実際の試験形式にて前回の講習内容の習熟度を確認した。2021 年度は、COVID-19 流行下であり、Zoom を用いて WEB にて開催した。1 回目の講習会（5 月）では、緊急検査のポイントの解説を行い、2 回目の講習会では、Google フォームを用いて模擬試験を実施した。受験者は、

スマートフォンを用いて設問に解答し、コアメンバーが採点を行い、受験者の正答率が低かった内容について模擬試験直後に解説を実施した。

【結果】2019 年度（第 41 回）は緊急臨床検査士試験を 11 名が受験し 10 名合格、2021 年度（第 42 回）は 17 名が受験し 14 名を合格に導くことができた。また、受講者へのアンケート結果からも、非常に高い評価が得られた。

【考察】緊急臨床検査士試験は、緊急検査項目の筆記試験と実技試験より構成されている。今回得た知識・技能を活用する事によって、広い視野を持って業務に取り組むことができ、より精度の高い検査結果の報告が可能となる。また、早い段階で資格試験を経験することで、今後より専門性の高い資格取得を目指すきっかけになると思われる。

【まとめ】本事業を 8 病院協同で取り組む事により、若手技師の知識・技能・意識向上とともに 8 病院の臨床検査室全体の活性化にもつながっていると感じている。

（※ 当日は、2022 年度の活動実績も報告予定である。）  
連絡先：0565-43-5000（内線：2979）